

令和6年度 第4回さぬき市地域未来づくり会議 会議要旨

開催日時	令和6年9月17日（火）午後7時～午後8時30分
場 所	さぬき市役所 302会議室
出席者	[委員・コーディネーター] 計5名 折原委員、砂川委員（WEB）、長町委員、池田委員、黒川コーディネーター
	[事務局] 計4名 向井審議監 プロジェクト推進室：大山室長、原田室長補佐、谷本主査
欠席者	なし
傍聴者	1名
次第	1 開会 2 官民連携サイト開設に係る情報発信等について 3 その他 4 閉会
配布資料	・ 次第 ・ プレスリリース（案）
発言者	意見概要
座長	本会議では官民連携サイトの最終チェックとプレスリリース確認、広報について話ができばと思っている。作って終わりにならないようにどうしていくかという部分だと思う。広報のところはまだアイデアが出しきれていない部分であるため、今日は色々なアイデアが出せたら良いと思っている。最初に修正したサイトの説明をお願いします。
事務局	（官民連携サイトの修正点について説明）
委員	電話連絡を嫌がる方は一定数存在するため、問合せフォームに希望連絡手段の選択肢があっても良いと思う。
事務局	基本的にはメールに返信することとしたい。
座長	サイトの表示がスマートフォン表示に対応しきれていないため、修正する必要がある。
事務局	事務局で修正した段階で座長に確認し公開することで良いか。
座長	了解した。例えば、スマホ版のイメージをベースに作成して、その後パソコン版で調整する方が作業しやすいと思う。また、よくある手法として、メニューは通常時に隠しておいて、折りたたみメニューを押すことでメニューが縦に出てくる方法に

	変更すると、すっきりした見た目になるので参考にしてほしい。プレスリリースの案について説明をお願いする。
事務局	(プレスリリースについて説明)
座長	報道機関がサイトを確認することができるように、プレスリリースの中にサイトのURLや2次元バーコードを挿入した方が良い。また、プレスリリースの情報がサイトを作成しただけの内容だとどうしても薄いように感じてしまう。既存の官民連携事例を記載しておく方が記者の方が記事のイメージをしやすくなる。また、プレスリリースに書かれている情報以上のことを記事にできないとってしまうので、分量はこれで良いと思うが、最初の導入文をもう少し圧縮して、書き方と文字のフォントサイズをもう少し小さくして、情報を多くできればいいと思う。
委員	文章だけでなく写真等を用いることで興味を引くことができると思う。事例を書かなくても、ホームページの事例写真と概要があるだけでもプレスリリース全体の印象がかなり変わってくる。
事務局	官民連携サイトと同様に修正でき次第、座長に共有する。
座長	了解した。プレスリリースについてはここまでとする。広報の方法については、前回会議のアイデアにもあったように、官民連携サイトの公開に合わせて商工会等に広報資料を置いてもらったり、商工会に登録している企業へ配布してもらったりすることはできるが、これは都市部など市外企業を対象とした情報発信ではない。そこで現在、津田でワーケーションのイベントを10月に開催することを企画しており、市も参加することで市外の企業との繋がりができるだけでなく、企業が自治体に求めているものが何かを知ることができる場になるのではないかと考えている。現時点で東京にある5社の企業から参加の応答があり、上場企業の代表者も来る予定となっている。また、今後さぬき市と提携があり得るようなサイズ感のAI系の企業が1社参加予定であり、例えばその会社がデータセンターを必要としているのなら、さぬき市の未使用施設を提案するといったような話にも繋がるようなイベントになれば良いと思っている。市内の企業への広報はこれまで議論してきたことがほぼ全てであり、銀行へのお知らせや商工会へのお願い、口コミによる事例の拡散になると思っている。しかし、市外の企業へのPRでは何が効果的なのかが見えていない部分があり、「実証実験ができる」ということ自体の受けが良いのか、あるいは公共施設で何かをしたいという企業が多いのかといった生の声をイベントで確認し、次回の会議で共有したいと思う。官民連携サイトの公開が予定どおり進めばイベント開催時期には公開されているため、都市部の企業から理想的な情報発信の仕方やニーズ等色々な話を伺えたら良いと思っている。また、イベントの中日には参加者と地域の方等を集めて様々なテーマに対するブレインストーミングを開催

	する予定としており、そのテーマの1つをワンストップ窓口として、さぬき市が市外の企業と色んな連携ができるようするにはどうしたら良いのかといったことをブレインストーミングできればと思っている。東京や鎌倉などの遠くの企業の声を聞ける良い機会になると思っている。また、今後官民連携を考えていくうえでは、地元企業とだけ連携する訳にもいかないため、それ以外の企業にもどのようにアピールし価値を感じてもらえるのか、何が求められているのかを学べる機会となることを期待している。なぜ、この会議でイベントの話をしたかというと、自分がそのイベントで司会をやらないといけないため、誰かにそのテーマ発表をしてもらう必要がある。最初の概要の説明などは市にお願いするが、アイデア出しの最中にさぬき市の官民連携の事例紹介や質疑応答等の対応とかもしてもらおうことがあると思う。テーマ出し等の役を委員の中の誰かにお願いしたい。
委員	それは私でも大丈夫か。
座長	砂川委員はどちらかというと外からの方であるため、アイデア出しをしてもらう側に入った方が参加者への良い刺激になると思う。
委員	黒川座長は司会のポジションに、砂川委員はアイデア出しの側に、残った委員は全員で発表ではどうか。
座長	都合がよければ3人での発表で良いと思う。場所については人数が確定していないためまだ決まってははいないが、津田公民館等での実施を考えている。テーマについては、例えば、「官民連携を増やすにはどうしたら良いか」や「ワンストップ窓口を設置したのでこれを知ってもらうためにはどうしたら良いか」といった程度の規模で良いと思っている。
委員	今後の方向性を考えれば、幅広いテーマの方が良いと思う。
委員	サイトを開設した後、一個出来上がった事例が欲しいので、「官民連携を増やすには」というテーマにしておくと、参加している企業から「こういうことが出来る」という話になれば一つの事例に繋がる可能性はあるので良いと思う。
座長	イベントに来た企業だけではなく、知り合いの企業とかとの繋がりから広がっていく可能性は結構あるのではないかなと思う。また、イベントに来ている期間中にSNSで状況を発信してくれたりもすると思う。
委員	広めに設定した方が盛り上がると思うので良いとは思う。一方で、あまり広すぎると具体的な話にならないということもあるのでバランスが必要だと思う。企業の方であれば何が課題で、何故それが達成されていないのかみたいな分析もしたいので

	はないかと思っていて、分析しやすい情報はこちらで用意しておくこともできると思う。また、確かにSNSで発信してくれると思うし、そういうところを取り上げるようになった場合、イベントが1日で終わらずにその後に繋がるようにできたら更に良いと思う。
座長	イベントの取組を定期開催することまで持っていければ良い気がする。鎌倉のイベントでは、4か月から半年に1回くらいのペースで開催しているらしく、1回来た人が次は友達を連れてやってくるみたいな感じで、少しずつ人数が増えていったとは聞いているが、これに関してはどのくらい会が盛り上がるか次第になるのではないかとはいっている。今回は市も参加していただけたので、その部分が個人的に大きいかなという気はしている。都市部の企業の自治体選びは、自治体の職員が前向きかどうかの部分を気にされる方が多いイメージがある。テーマについては、広く設定することで問題ないが、その課題の部分は伝える必要があると思う。さぬき市の官民連携の課題としては、そもそも企業からの提案が少ないイメージがあるがどうか。
事務局	そうだと思う。
座長	提案があってから実現するまでは形になっているものが多いが呼び込みが弱いイメージがある。
委員	実際の事例でさぬき市に決めた理由や魅力は何だったのかといった情報が参考としてであると良いと思う。
座長	埼玉県横瀬町が行っている「よこらぼ」は、東京からある程度近いという距離的な部分と、前例がない取組に対して積極的だったことが印象的である。事例がないとダメといったスタンスではなく、事例がなくてもOKだということを条件に書いてあり、そういうことが良かったといった声は実際にある。今回、企業の実際の生の声が聞ける良い機会だと思う。
長町委員	市の課題みたいなのが何か一つあった方が良いのではないかと。具体的な課題を投げかけることによって色々な意見が聞けると思うので効果的であると思う。
座長	先導しイメージが付きすぎないように官民連携の事例を1枚スライドで見せるだけで良いと思う。また、廃校でも安価で借りることができることは都市部の企業に対しては売りになると思う。
委員	土地の利活用関係は分かりやすい。地方の土地などで取得費が安価なところを買い取り、都心部の富裕層の別荘に改築するビジネスみたいなのをやりたいという話は

	聞いたことがある。
座長	東京と地方を比較した時の強みは、圧倒的に家賃や土地が安いことだと思う。企業が来てくれれば雇用が生まれ、使われていない空き家に対してお金を払ってくれるだけでなく、周辺の事業者にもお金が流れることとなるので良いことしかない。広報の方法の話に戻したい。勝手なイメージだが、何かしたいことがあればさぬき市に問い合わせてみたいと思う人をどうやって都市部に広めることができるかが重要で、それには口コミが一番強い気がしている。恐らく、話を持っていくのではなく、来てもらって広めてもらうことが大事な気がする。そういう意味で、今回のイベントは半日で都市部の企業の方が来て、さぬき市をPRすることや連絡先の交換もできるので、都市部のフェアに行くことと一緒にことをさぬき市にしながらできる。今回はさぬき市を見るためだけに来る人達なので、こういう取組は一つの切り口にはなるではないかと思っている。
委員	今回のイベントについて取材をしてもらうことはどうか。
座長	それはできると思う。一番良いのはこのイベントがワンストップ窓口の取組の第一号ですと言えば良い。
事務局	このイベントの主催は誰か。
座長	現時点では決まっていないが、主催はどこでも良いと思っていて、本会議が主催でも良いと思う。イベントとしては1時間の中でひたすらアイデアを出すブレインストーミングの方法で行い、今回ファシリテーターの方も来てくれることとなっている。一つのテーマでプレゼン5分、ブレインストーミング5分、発表5分の計15分を3～4セット行う。
委員	広報の方法として、ワンストップ窓口の事例の一つとしてこのイベントを巻き込んでも良いと思う。
事務局	今回のイベントはどういうことをするのか。
座長	基本はワーケーションというものであり、3日間の内、2日目がメインとなる。来られる方の中にはさぬき市を知らない人もいたので「大窪寺」と瀬戸芸のエリアでもある「志度エリア」の2箇所を回るツアーを企画している。その後交流会でテーマごとに意見をもらう予定としており、3日目には参加している企業に話を聞きたいことがあれば聞ける場を設けようと思っている。
事務局	仕事をするということはサテライトオフィスみたいな感じか。

座長	ドルフィンセンターやピザ屋などのまち全体の色んなところで仕事ができるようなイメージだ。イルカを見ながらワーケーションできるところはあまりないと思う。先程意見があったようにこのイベントを取材依頼すれば、ワンストップ窓口や地域未来づくり会議の話も出来るので良いと思う。次回の会議はイベントで出た意見を基に広報のアイデアを考えていけば良いと思う。また、次回の時点でサイトも公開されているので、市内の企業に声掛けすることもしやすくなると思う。
事務局	9月の議会で地域未来づくり会議について、どんな活動しているかといった質問があった。
座長	本会議は市議会議員からの評価が良かったらしく期待されていると思う。では次回イベントを挟んでの会となるがよろしく願います。 以上で、本日の会議は終わりたいと思う。 ～閉会～